

飼育下で確認したホシガレイ放流種苗の性比

福島県水産種苗研究所

1 部門名

水産業-種苗研究(基礎)-種苗生産

2 担当者

山野辺貴寛

3 要旨

ホシガレイは、雌の方がより大型に成長して商品価値も高い為、性比が極端に雄に偏ることは経済的に不利である。また、偏った性比の人工種苗を放流することは、天然資源の遺伝的多様性に影響を与えることも考えられる。そこで、現在の放流種苗の性比を把握しておくために調査を実施した。

- (1) 平成19～22年度に放流した計23群のうち、19群について種苗の一部を生殖腺が発達するサイズまで継続飼育し、生殖腺の目視による雌雄判別を行った。
- (2) 雄の割合は、平均46.5%、最大で70%であった。雌の割合は、平均53.5%、最大で69.5%であった。
- (3) いずれの年も放流が遅い群ほど雄の割合が高く、成長不良の個体が多く含まれる放流群では、雄の割合が高くなる可能性が示唆された。
- (4) 年ごとにみた場合、いずれの年も大きな性比の偏りはみられなかった。

4 主な参考文献・資料

- (1) 福島県水産種苗研究所平成10年度事業報告書
- (2) 福島県水産種苗研究所研究報告第3号
- (3) 福島県水産種苗研究所研究報告第4号